

熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター

年 報

第4号

2013

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

序 文

文学部附属永青文庫研究センターは、平成25年3月で4年目が終了し、4月からはいよいよ最終年度である5年目を迎えることとなりました。この4年間、本研究センターの活動の一環として、毎年『永青文庫叢書』を発刊してまいりました。第1巻は平成22年5月『細川家文書中世編』、第2巻は平成23年3月『絵図・地図・指図編Ⅰ』を、平成24年3月、永青文庫叢書第3巻として『細川家文書近世初期編』を、そして平成25年3月には『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』第4巻を発刊することができました。

毎年このように確実に実績を積み上げてこられたのも、スタッフの頑張りだけではなく、数多くの人々や企業の支援のおかげです。平成24年度にも、肥後銀行をはじめとして、熊本全日空ホテルニュースカイ等から、まことに心温まるご支援を頂きました。

ここで特筆すべきは、本研究センターが平成22年5月『永青文庫叢書 細川家文書中世編』第1巻にまとめて発表した研究成果が文化庁によって認められ、本年、「細川家文書(266通)」が、国重要文化財に指定されることとなったことです。スタッフ一同大喜びをしております。これらは熊本県民の宝であると同時に、日本の宝でもあるのです。私たち永青文庫研究センターが行ってきた地道な研究成果が多くの人々に活用されれば、それに勝る喜びはありません。

その他の活動としては、舞鶴市の文化振興課が企画した『細川幽斎と舞鶴』の執筆・制作への協力、熊本県内での各種講演等、活発な地域貢献を行いました。特に講演にかんしては、平成24年9月に熊本市で開催された「第13回日本分子脳神経外科学会」において、「日本史研究の最前線—細川家史料から—」というタイトルで、稲葉教授が講演を行いました。この講演は、全国の脳外科医の方々の関心を引いたことで大成功をおさめました。

これからも、永青文庫の各種資料が正当な評価を受け、国民の共有財産としてひろく活用可能となる条件を形成するため、本研究センターが担っている任務としての永青文庫史資料の目録作成とデータベース化、重要典籍・史料の撮影はもちろんのこと、来年度に永青文庫研究センター第1期最終年度を迎えるにあたって、『永青文庫叢書 細川家文書 芸能資料編』の発刊を目指して、たゆまぬ努力を続けてまいります。

なにとぞ、文学部附属永青文庫研究センターの活動を、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

平成25年3月吉日

熊本大学文学部長

大 熊 薫

目 次

序文	1
1. センターの年間活動	4
2. 年間活動報告	9
古文書・古記録研究部門	9
絵図・地図研究部門	10
有職・故実研究部門	11
文学・文芸研究部門	12
3. 講演会の記録	13
竹原家故実と細川藩	13
4. 研究ノート	
細川三斎の『百人一首秘決』について	15
5. 研究員の年間活動	20

1. センターの年間活動

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成24年4月6日	蔵書目録撮影	徳岡・山田・藤本
4月9日	スタッフミーティング	センタースタッフ
4月10日	中世史部会「中世国家論と時代区分論」報告	機関紙会館3F 稲葉
4月13日	蒲島知事に面談 「永青文庫叢書絵図・地図・指図編Ⅱ（仮）」の序文を依頼し、快諾して頂いた 八代未来の森ミュージアム 松井葵之館長・林学芸員来訪 図書館貴重書庫にて松井興長関係史料を閲覧	蒲島（熊本県知事） ・甲元 稲葉・後藤
4月22日	加藤清正シンポジウム パネラー：稲葉継陽 主催：熊本日日新聞	センタースタッフ
4月23日	スタッフミーティング	稲葉
4月25日	舞鶴市役所総務部企画課長来訪	センタースタッフ
5月7日	スタッフミーティング	熊本県企業立地課・稲葉
5月9日	講演打合せ	北野・藤本・江上（カマノ写真館）
5月14日～16日	永青文庫（東京）絵図地図類調査・撮影	高濱
5月15日	武田流宗家竹原陽次郎氏に挨拶	センタースタッフ
5月21日	スタッフミーティング 熊本市歴史文書室 フィルム（絵図地図）借用	甲元・北野・藤本
5月23日	山下総務部長来訪	山下総務部長・稲葉・川口・甲元
5月31日	「加藤・細川400年の歴史（永青文庫資料）と地域社会」講演 主催：熊本県企業立地課 熊本市歴史文書室 フィルム（絵図地図）返却	稲葉 北野・藤本
6月4日	スタッフミーティング	センタースタッフ
6月6日	県広報番組「おしえて！くまモン」熊本城にて撮影	稲葉
6月12日～15日	東京資料編纂所来訪 「公儀御書案文」の撮影・調査、研究打合せ	山口（東大）・木村（東大）他2名・稲葉

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
6月18日	スタッフミーティング	センタースタッフ
6月25日	県広報番組「おしえて！くまモン」 加藤清正生誕450年～清正公物語の発掘～放	稲葉
6月26日～27日	幽斎冊子打合せ	舞鶴・稲葉
6月27日	HP 改装打合せ	ソフトシンク・柴田
7月2日	HP 改装打合せ スタッフミーティング	ソフトシンク・稲葉・柴田 センタースタッフ
7月5日	熊本日日新聞取材	吉丸（永青文庫）・熊日・稲葉
～6日	今村直樹氏来訪・古文書調査	今村（静岡大学）・稲葉
7月9日	文書目録撮影	藤本・小野（博士前期課程1年）・木下（前同）
7月9日～12日	文化庁文化財部美術学芸課池田・横内両調査官が永青文庫中世文書を調査・文化財指定に向けての打合せ	池田（文化庁）・横内（文化庁） 川口・稲葉
7月12日	HP 改装打合せ	ソフトシンク・稲葉・柴田
7月17日	来年度予算打合せ・文化庁による永青文庫調査等の結果報告	吉丸（永青文庫）・稲葉・後藤
7月18日	来年度予算打合せ	県庁・甲元
7月23日	文化庁長官、附属図書館来訪 スタッフミーティング	川口 センタースタッフ
7月27日	加藤清正・熊本城について取材	山田（NHKプラネット）・稲葉・北野
8月1日	HP 改装打合せ	ソフトシンク・稲葉・柴田
8月6日	スタッフミーティング 絵図地図撮影（大型資料）	センタースタッフ 藤本・小野（博士前期課程1年）・木下（前同）
8月7日	京都府立丹後郷土資料館資料課 吉野氏来訪 細川幽斎冊子について研究打合せ	吉野（丹後郷土資料館学芸員）・稲葉
8月8日	永青文庫基金活用委員会	熊本県・県立美術館・甲元

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
8月27日	運営委員会事前打合せ スタッフミーティング	センタースタッフ
8月28日	永青文庫研究センター運営委員会	大熊（文学部長）・岩岡 （社文科研長）・甲元・稲葉
9月5日	永青文庫理事来訪 新任の挨拶	甲元・稲葉
9月10日	熊本日日新聞取材 スタッフミーティング	浪床（熊日）・稲葉 センタースタッフ
9月13日	熊本青年会議所との講演打合せ	熊本青年会議所・稲葉
9月20日	日本分子脳神経外科学会 特別講演 「日本史研究の最前線 -細川家史料から-」 講師：稲葉 継陽 竹原家文書調査	稲葉 高濱・松崎
9月24日	スタッフミーティング	センタースタッフ
9月25日	文化庁訪問	甲元
10月2日	竹原家文書調査	高濱・松崎
10月9日	竹原家文書調査	高濱・松崎
10月15日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月17日	熊本県民カレッジ 講演	稲葉
10月18日	熊本日日新聞取	浪床（熊日）・稲葉
10月29日	スタッフミーティング	センタースタッフ
11月2日	上井埼玉大学学長 来訪	上井（埼玉大学学長）・ 稲葉
11月3日	永青文庫セミナー「竹原家故実と細川藩」開催 講師：高濱 州賀子	文法棟1FA2講義室 聴講者：約70名
11月12日	スタッフミーティング	センタースタッフ
11月15日	川口恭子特任教授が地域文化功労者として表彰される	川口
11月24日	「武田流流鎬馬保存会」の会合にて、「竹原家故実と細川藩」講演	高濱
11月25日	加藤清正リレーシンポジウム 講演	稲葉 県庁地下会議室
11月26日	スタッフミーティング	センタースタッフ

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
11月27日 ～28日	文化庁来訪 ①中世文書群の文化財指定について打合せ ②重要文化財指定審議のため中世文書を搬出	稲葉・後藤
11月28日	肥後銀行小堀氏 来訪	川口・甲元・稲葉
11月29日 ～30日	細川幽斎冊子作成委員会	舞鶴市教育委員会・稲葉
12月6日	竹原家文書調査	高濱・松崎
12月10日	スタッフミーティング	センタースタッフ
12月11日	校正・研究打合せ	山田（県美）・稲葉
12月13日	熊本地域総合研究所来訪	荒森（熊本地域総合研究所長） 稲葉
12月14日	永青文庫資史料についての取材	日本テレビ・稲葉
12月18日 ～19日	研究打合せ	吉野（丹後郷土資料館学芸員） ・稲葉・後藤
1月7日	スタッフミーティング	センタースタッフ
1月10日	肥後銀行小堀氏 来訪	小堀（肥後銀）・稲葉
1月17日	吉丸理事 来訪	吉丸（永青文庫）・稲葉
1月21日	スタッフミーティング	センタースタッフ
1月24日 ～25日	『永青文庫叢書』最終色校正関係出張	精興社（東京） 藤本・岡庭（吉川弘文館）
1月31日	永青文庫研究センター運営委員会	江藤ユニット長・立山係長・甲元・稲葉
2月3日	「領国地域社会論シンポジウム」に向けての研究打合せ	今村（静岡大学）・小関（千葉大学） 白石（宮内庁書陵部）・高槻（神戸大学）・稲葉
2月4日	スタッフミーティング	センタースタッフ
2月12日	文化庁への予算申請についての打合せ	熊本県文化課・甲元
2月16日	『細川幽斎と舞鶴』発刊 同発刊記念シンポジウム開催	稲葉・高濱・森

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
	基調講演「細川幽斎と舞鶴」 講師…稲葉 継陽 パネルディスカッション～舞鶴市の歴史を活かしたまちづくりを考える～ コーディネーター…稲葉 継陽 パネリスト… 松本 昭司（まいづる細川幽斎田辺城まつり実行委員会 会長） 加藤 晃（舞鶴市文化財保護委員、舞鶴地方史研究会 会長） 野々尾 理一（田辺城ガイドの会 会長） 廣瀬 邦彦（京都府立大江高等学校 教諭、舞鶴山城研究会 会長） 吉野 健一（京都府丹後郷土資料館 技師）	参加者：約160名 場所：舞鶴勤労者福祉会館4階ホール
2月19日	スタッフミーティング	センタースタッフ
2月20日	永青文庫資料・地下書庫撮影、取材	日本テレビ・稲葉
2月27日	細川家文書(266通)が国の重要文化財指定の答申がなされる	
3月1日	『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』刊行	
3月4日	スタッフミーティング	センタースタッフ
3月5日 ～6日	東京大学史料編纂所と研究打合せ	東大史料編纂所・稲葉
3月7日	『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』出版挨拶・文化庁打ち合わせ	公益法人永青文庫・吉川弘文館・文化庁・東大史料編纂所 甲元・稲葉・藤本
3月11日	『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』出版挨拶	肥後銀行 大熊・甲元
3月13日	『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』出版挨拶	熊本県庁(知事、文化課) 甲元・藤本
3月18日	スタッフミーティング	センタースタッフ
3月31日	大熊薫文学部長退任	

2. 年間活動報告

古文書・古記録研究部門

川口恭子・稲葉継陽・吉村豊雄・長井勲

1. 総目録作成作業

(1) 藩主お手元史料の目録化の完了

貴重書庫の「杉部屋」に保管されている、各種の藩主お手元史料群については、調査カードに記入した情報をエクセル・ファイルに入力・データ化する作業を完了した。その点数は10,522点である。

(2) 藩政史料群の目録化作業

膨大な藩政史料群について、古文書や古記録綴り一点ごとに調査データを記入する調書を作成し、その調書上のデータをエクセル・ファイルに入力する作業を継続的に推進した。

(3) 全体の進捗状況

平成21年度の事業開始から25年2月末での調書作成・データ入力等の総計は、以下の通りである。

- 作成調書数39,476
- 調書データ入力数29,601
- 未調査約1,500点

このように、センター発足以来4年間弱の調査期間において、当該分野の担当で40,000点ちかくの史料調書が作成され、うち30,000点ちかくの調書データが電子化された。未調査史料は、約1,500点と見込まれる。

平成25年度中には、すべての歴史資料の調書データの電子化が完了できることは確実であるが、あわせて、必要な範囲での再調査と、他分野との調整を進めていく必要がある。

2. 中世文書群の目録作成

永青文庫所蔵資料群のうち、中世文書群について国指定を検討するとの意向が文化庁調査官から示されたことにより、センターが作成していた調査カード等のデータによって、約350通分の詳細目録(写も含む)を作成し、文化庁に送付した。

なお、平成25年2月27日、中世文書等266通について文化審議会からの正式答申がなされ、国指定重要文化財に指定されることになった。

3. 関連事業

(1) 『細川幽斎と舞鶴』(舞鶴市)の刊行

細川幽斎にゆかりの深い舞鶴市の文化振興課の企画で、舞鶴市内の中学校社会科の副読本としても用いられる書籍の刊行が企画され、稲葉継陽が作成委員会の委員長をつとめた。本書は、稲葉の監修、稲葉・高濱州賀子・森正人らによる分担執筆、後藤典子の校正協力

によって作成され、平成25年2月16日付で刊行された。

(2) 森正人・稲葉継陽編『細川家の歴史資料と書籍』（吉川弘文館）の刊行

本センターにおける古文書・古記録研究部門と文学・文芸研究部門の一定の研究成果を反映した上記の書籍を、平成25年3月25日付で吉川弘文館から刊行した。稲葉による序説のほか、歴史資料に関する論文三本（山田貴司、稲葉、松崎範子）と書籍資料に関する論文三本（森正人、徳岡涼、山田尚子）を収録し、永青文庫資料の全体を見渡しつつも、中世文書・藩政史料・書籍群といった特色ある部分についての専論を配列した論集とすることができた。

絵図・地図研究部門

北野隆・藤本豊治

1. 目録作成作業

(1) 本年度の活動

本年度は、『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』の編集と執筆、校正など出版事業に専念したため、目録作成作業は各研究分門から報告の上がってきたものなとりスタップ漏れの資料を点検し集約するに留まった。この結果、当部門で調査すべき資料が新たに約150点加わり、未調査の資料は全体で約250点となった。

(2) 今後の見通し

絵図・地図資料群について、残す作業は以下に示す通りである。来年度の早期に①調査カードの作成を終え、その後、②記載内容を見直し統一をはかり、③電子データ化まで全て2013年度内で完了する見込みである。

①調査カード作成（未調査資料：約250点）

②調査カードの見直し（統一化、原本校正など：約1,000点）

③電子データ化（①で作成した新規カードの入力、②による修正の反映、写真データ整理など）

2. 『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』の出版

本センターから出版する4冊目の叢書として、「徳川幕府の成立と領国支配」をテーマに、合戦絵図、国絵図、参勤交代や鎖国に関わる絵図など203点の写真・解説・目録等を集成した『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』を2013年3月1日の奥付で、吉川弘文館から刊行した。

(1) 『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』の構成

本書は、『絵図・地図・指図編Ⅰ』（2011年3月）と同じく「図版編」、「解説編」、「収録史料目録」で構成し、「徳川幕府の成立と領国支配」に関するものを203点選び、下記①～④のように分類し時代順に掲載した。

①「江戸幕府の成立」（合戦絵図：13点）

②「領国」（国絵図：14点、櫛場絵図：22点、新地絵図：2点、災害絵図：7点、鷹場絵図：8点、明治の県図：1点、全国絵図：40点）

③「参勤交代」（街道絵図：10点、江戸町絵図：29点）

④「鎖国」（島原の乱図：3点、外国船渡来図：21点、長州戦争図：2点、世界地図：31点）

また、「解説編」は収録資料の解説を北野が、未収録資料も含めた「絵図・地図・指図」資料群全体の構成などを藤本が執筆した。

(2) 出張（調査・撮影、色校正）

①調査・撮影：永青文庫（東京）2011年5月14～16日（北野、藤本、カマノ商会江上）

②色校正：精興社（東京）2012年1月25日（藤本）

3. 文書目録の写真撮影

藩政期に作成された文書目録の調査・撮影を行った。

撮影点数：17点〔文政期：13点、天保4年、嘉永元年、文久2年、元治元年：各1点〕（藤本、熊本大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程1年小野航、同1年木下泰葉）

なお、永青文庫に伝存する近世から近代にかけての蔵書目録については、文学・文芸研究部門が調査・撮影を行っており、両目録の調査・撮影により熊本大学附属図書館に寄託された資料群全体（古文書や絵図類、典籍類など）の伝来過程や文書管理について把握・精査することが可能となった。

有職・故実研究部門

高濱州賀子

前年度までに杉部屋（貴重本書庫）に収蔵されている資料が終了、今年度から杉部屋以外に架蔵されている有職故実・芸能・美術工芸関係資料を調査、分類していく作業を行った。

杉部屋以外の故実資料は、これまで行われてきた国文学研究資料館の調査データが約1,100件に上っている。これらについて、本年度はデジタル撮影を行い精査した。その結果、国文学研究資料館が未調査の194件を含めた、約1,300件のデジタル撮影が終了した。来年度はこれらのデジタル画像と調査データの一体化を行い、目録を完成させていく。

ところで、今年度調査の武家故実分野において、際立って多くの書写本を残していたのが、細川藩の「弓馬故実の家筋」と称される竹原家歴代の人々であった。奥付の有無はあるものの、筆跡から明らかなのが多く、故実書の伝承過程が推測される資料群となっている。

『永青文庫叢書』第5巻『芸能資料編』出版に備えて、永青文庫の故実資料を編年するために、現在も武田流流鏑馬宗家として活動されている竹原家において、家文書を調査した。竹原家文書は知行宛行状以下、相当数が現存しており、これらにより竹原家系図および各代の事蹟が判明する。永青文庫に残る故実資料と竹原家資料と付き合せていくことによって、伝承過程の検討がより精密になっていった。

また竹原家が担った故実御用の実際を、本年度の第7回永青文庫セミナー「竹原家故実と細川藩」で紹介した。これまで大多数の故実書が、書写年代や筆者が判明しにくいものであったが、竹原家という尺度を用いてある程度は分類可能になるであろう。

文学・文芸研究部門

森正人・徳岡涼・山田尚子

- *今年度は、図書館の改修工事のために集中調査は実施出来なかったが、地下2階、歴史班が調査を継続している未登録・未調査分の中から、文学・文芸に関するものについては常時調査を継続。…40点・徳岡・山田
- *永青文庫に存する近世から近代にかけての目録、細川幽齋関係の典籍、漢籍を中心に重賢関係の典籍の調査・再調査を行った。目録…48点(58冊)、幽齋・幽齋周辺関係…77点(94冊)、重賢関係…178点(982冊)。なお、今年度までの調査済み点数は、典籍・一枚物(歌稿・詩稿・短冊・色紙類)併せて約6000点。
- *『前田尊経閣文庫目録』などを参照しながら、カード分類と、データベース化(今年度までで、4550点入力済み)。…徳岡・山田
- *幽齋関係・幽齋周辺の典籍及び付属文書を再調査、入力作業。総計71点(324冊・付属文書50点)…徳岡
- *細川幽齋奥書集成として、永青文庫蔵の幽齋関連典籍の奥書を蒐集…徳岡
- *未調査典籍は、未登録分を中心に160点程度。来年度の集中調査で調査完了予定。なお、一枚物は、今後データベース化をする予定。データベース化した典籍に関しては再調査を要する。

3. 講演会の記録

熊本大学 公開講演会・第7回永青文庫セミナー

2012年11月13日

竹原家故実と細川藩(要旨)

高濱州賀子

本セミナーでは、熊本大学寄託の永青文庫資料のなかから武家故実関係を取りあげました。これら千点を超える資料は、武門としての「御家」が伝承してきた故実書や、細川藩の儀式行事のために記録され伝えられたものなどです。

この資料群には一つ大きな特徴があり、それは、江戸期を通して竹原家が藩の「故実の家」として御用を担っていたことが見えてくることでしょうか。ここで問題となる竹原家は、現在は武田流の流鏑馬宗家として活動され、自家の文書も数多く伝承されていました。幸いにも竹原家の好意により、竹原家文書の調査を行うことができ、殆どは未発表のこれら資料を検討することになりました。こうして永青文庫と竹原家の二カ所の資料を併せ見ることで、判明してくる故実の実態を紹介させていただくこととなります。

肥後細川家の初代、藤孝(幽齋)は若くして室町幕府に仕え、將軍取次役を務めました。ここで彼は長年に亘って築かれてきた幕府の武家儀礼、儀式作法、武家故実の多くを受け継ぎます。この幽齋の故実相伝に欠くことのできない人物がいました。家臣の竹原市蔵(惟成・少左衛門・墨斎玄可)です。竹原家は代々阿蘇家の家臣でしたが、父の代に薩摩の嶋津氏に仕えます。幽齋が豊臣秀吉の命で薩摩の嶋津義久の許を訪れたとき、八歳(十歳とも)の市蔵に出会い、その才能を見込んで丹後に連れ帰ったといわれます。

市蔵は幽齋のもとで室町幕府儀礼や和歌文学を修得します。さらに一色藤長、武田信直らから武家故実を相伝、多数の写本を残しました。幽齋が亡くなったあとは三斎に仕えます。右筆となり多くの三斎書状を執筆し、その書札礼を残し、豊前から肥後八代へ従いました。『竹原少左衛門覚書』(竹原家文書)は、自身の経歴を述べたあと、伝承してきた故実書を息子に受け継がせるための訓戒となっています。このようにして、その子孫は細川忠利、綱利、宣紀、宗孝へと代々の藩主の故実方として儀式作法を担当します。

ここで竹原市蔵を初代とする家系図を提示し、藩主との対応関係を見てみます。系図は竹原家文書などを史料にして略系図を作成したもので、歴代の通称、実名、生没年、事蹟等を紹介しました。竹原家系図は前例が無く、今後の検討が必要なものです。

最後に映像による故実書の紹介に移り、幽齋筆写の『故実條々記』から始まり、市蔵が本文を書写し奥書は幽齋による『書札條々記』などを検討します。

さらに宝暦の改革を行った重賢の側近として活躍した竹原勘十郎惟親(玄路)の筆跡による『当家墓目伝授』を紹介しました。また吉礼行事のなかでも資料が膨大な『婚礼』について、

詳しい写本を残した竹原清太夫（惟庸）による婚礼調度や床飾りの図面などを見ると、故実家はまた絵書としての能力を持つことが納得できます。

幽斎と市蔵から始まり、写し継がれ現在に至ったこれら貴重な資料から、細川藩の「弓馬故実の家筋」と認識されていた竹原家と、その果たした役割の一端を紹介してみました。

熊本大学

公開講演会・第7回永青文庫セミナー

竹原家故実と細川藩

永青文庫に残る多数の故実芸能関係の写本類から、大名家に欠くことのできない行事や儀式、武芸の修得など「大名としての体面」を支えた故実書の実際を検討し、細川藩の故実相伝に大きな役割を果たした竹原家歴代の仕事を考察します。

竹原家は現在も武田流流鏑馬宗家として活動しています。

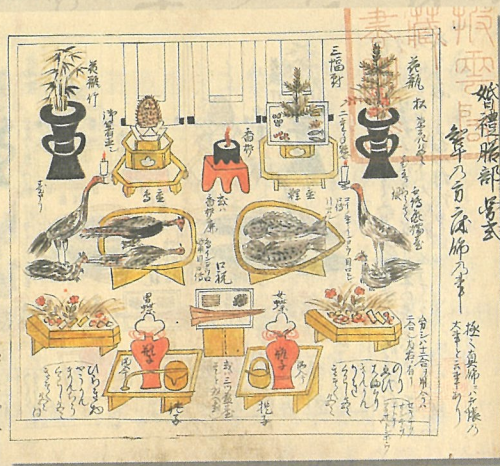


講師 **高濱 州賀子**
(熊本大学文学部附属永青文庫研究センター客員准教授)

日時 **平成24年11月3日(土) 文化の日**
14:00 ~ 15:30

会場 **熊本大学文法棟 1階 A 2 講義室**
(文学部・法学部棟)

入場無料



「婚禮(羊十冊のうち)」

「賀の方床飾の事」竹原清太夫筆カ・江戸時代中期

主催：熊本大学附属図書館

協力：熊本大学文学部附属永青文庫研究センター
公益財団法人永青文庫
「熊本城400年と熊本ルネッサンス」県民運動本部

5. 研究員の年間活動

稲葉継陽

各種委員会

人吉城跡調査検討委員、佐敷城跡調査検討委員、陣の内館跡調査検討委員、
宇土城跡調査検討委員、高麗門遺跡調査検討委員、細川幽斎公冊子作成委員長（舞鶴市）

著作

- ・監修及び執筆『細川幽斎と舞鶴』舞鶴市、2013年
- ・共編『細川家の歴史資料と書籍』吉川弘文館、2013年

論文

- ・「加藤清正の歴史的 position」（熊本県立美術館図録『生誕450年記念展 加藤清正』2012年）
- ・「中世の社会体制と国家」（『日本史研究』600号、pp.54-81、2012年）
- ・「細川家伝来の織田信長発給文書—細川藤孝と明智光秀—」（森正人・稲葉継陽編『細川家の歴史資料と書籍』、PP.49-87、吉川弘文館、2013年）
- ・「熊本大学寄託永青文庫細川家史資料の歴史的 position」（同上、PP.1-15）

学会報告

- ・「中世国家論と時代区分論」日本史研究会中世史部会（京都・機関紙会館）、2012年4月10日

講演

- ・「加藤・細川400年の歴史（永青文庫資料）と地域社会」熊本県企業誘致連絡協議会通常総会、2012年5月31日
- ・「加藤・細川家の歴史と熊本」九州ブロック保健所長会 研修会2012年7月13日「加藤清正の生涯—その歴史的 position をめぐって—」生誕450年記念展 加藤清正 特別講演会（熊本県立美術館）、2012年7月21日
- ・「細川家伝来の織田信長文書—細川藤孝と明智光秀—」くまもと県民カレッジ 熊本学Ⅱコース、2012年10月17日
- ・「熊本城下町の形成と戦国社会」2012年度熊本青年会議所11月例会、2012年11月14日
- ・「日本史研究の最前線—細川家史料から—」第13回日本分子脳神経外科学会、2012年9月20日
- ・「細川幽斎と舞鶴—幽斎の日本歴史上の役割について—」『細川幽斎と舞鶴』発刊記念シンポジウム（舞鶴市）、2013年2月16日

シンポジウムパネラー

- ・熊本市政令市移行記念・熊日創立70周年事業関連イベント「加藤清正 伝説と真実 第1

回 加藤と小西…秀吉家臣の確執」くまもと森都心プラザ、2012年4月22日

- ・熊本市政令市移行記念・熊日創立70周年事業関連イベント「加藤清正 伝説と真実 第3回 加藤家改易一人歩きする清正の残像」熊本県庁、2012年11月26日
- ・『細川幽斎と舞鶴』発刊記念シンポジウム「舞鶴市の歴史を活かしたまちづくりを考える」舞鶴勤労者福祉会館、2013年2月16日

川口 恭子

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員、
公益財団法人永青文庫評議員、財団法人松井文庫評議員

監修

- ・『松井文庫所蔵古文書調査報告書』16、八代市立博物館未来の森ミュージアム、2012年
- ・『夢の実現を：ふるさとくまもとの人々 郷土読本』熊本市教育委員会、2012年

講座

- ・「古文書学講座」熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部主催、月2回
- ・「古文書を読む（初級）」熊本市現代美術館、月2回
- ・「古文書を楽しむ」NHK 文化センター熊本教室、月2回

受賞

- ・平成24年度地域文化功労者賞受賞

北野 隆

各種委員会

熊本市文化財保護委員会、大分市文化財保護審議会、熊本城復元検討委員会、
人吉城整備検討委員会、岡城整備検討委員会、宇土城整備検討委員会、
勝尾城整備検討委員会、臼杵城整備検討委員会、南関城調査委員会、佐敷城策定委員会、
中津城整備委員会、熊本アートポリス推進賞選考委員、八代妙見祭笠鉾保存委員会、
杵築城整備委員会

論文

- ・「永青文庫所蔵の「絵図・地図・指図」—江戸幕府の成立と領国支配—」（熊本大学文学部 附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』、吉川弘文館、pp.187-205、2013年）

講演会

- ・「熊本城の構造と魅力について」、熊本国際交流会館、2012年8月2日

・「熊本県の文化財について」、熊本県建築士会館、2012年9月15日

甲元真之

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員、文化庁「発掘調査のてびき」作成委員会委員、玉東町・熊本市西南戦争遺跡調査検討委員会委員、宇土市遺跡保存活用検討委員会委員、甲佐町陣ノ内館調査検討委員会委員、東名遺跡重要性検討委員会委員、高麗門遺跡調査検討委員

著書・論文等

- ・『珠璣』68、PP. 2013年
- ・「砂丘遺跡と考古学」『西海考古』第8号、PP. 73-81、2012年
- ・「埋蔵文化財行政に期待されること」『平成24年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会』PP.36-37、文化庁・広島県教育委員会、2012年
- ・「東名遺跡の考古資料」『植物利用の源流をさぐる』、P1、佐賀市教育委員会、2012年
- ・「先史学研究と民族誌」『東アジアの文物』第2巻、PP. 73-102、世宗出版社、2012年
- ・「柳田國男とヴィクトリア朝後期の人類学」『先史学・考古学研究と地域・社会・文化論』PP. 196-212、高橋信武退職記念論集編集委員会、2013年
- ・「永青文庫研究センター活動報告」『文学部通信』第12号、P. 8、2013年
- ・「跋文」熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』、吉川弘文館、PP. 349-350、2013年
- ・監修『発掘調査のてびき 各種遺跡編』、330PP.、文化庁、2013年

講演会

- ・熊本県文化財保護協会「永青文庫資史料とその活用」市民会館、2012年5月18日
- ・熊本ルネサンス運動本部「高麗門遺跡の調査」交通センターホテル、2012年5月19日
- ・文化庁埋蔵文化財担当職員等講習会「埋蔵文化財行政に期待されること」広島県歴史博物館 2012年9月5日
- ・佐賀市教育委員会『東名シンポジウム植物利用の源流をさぐる』2012年10月14日
- ・文化庁埋蔵文化財担当職員等講習会「埋蔵文化財行政に期待すること」江戸東京博 2013年2月6日
- ・植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会「西南戦争とは何であったか」玉東町中央公民館 2013年3月3日

高濱州賀子

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員、大分市美術館収集委員、財団法人松井文庫理事

講演会

- ・熊本大学第7回永青文庫セミナー「竹原家故実と細川藩」熊本大学文法棟、2012年11月3日

非常勤講師

熊本大学教育学部非常勤講師、崇城大学芸術学部非常勤講師

論文

- ・「細川幽斎の芸能」『細川幽斎と舞鶴』、PP. 57-103、舞鶴市、2013年

徳岡 涼

非常勤講師

熊本大学教養教育実施機構非常勤講師、熊本県立大学文学部非常勤講師、熊本市医師会看護専門学校非常勤講師（文学）、人間文化研究機構国文学研究資料館平成24年度共同研究員・日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉

論文等

- ・『和歌文学大事典』（古典ライブラリー）辞書項目「為仲卿詠草」「幽斎君御事蹟並御和歌等抜抄」
- ・「細川幽斎の蔵書形成について」『細川家歴史資料と書籍』、PP. 153-193、吉川弘文館、2013年
- ・「手習巻の浮舟歌—二本の杉をめぐって—」『国語国文学研究 伊原信一教授退職記念特輯号』PP. 129-141、熊本大学国語国文学会 第48号、2013年

講座

- ・「平安朝文学～源氏物語を読む～」熊本公徳会カルチャーセンター、月2回
- ・「古今和歌集を読む」熊本公徳会カルチャーセンター、月2回 於びふれす熊日会館

森 正人

各種委員会

人間文化研究機構教育研究評議員、人間文化研究機構総合研究推進委員会委員

編著書

- ・『場の物語論』、若草書房、396P.（単著）、2012年
- ・『心をめぐる古代的表現』、熊本大学大学院社会文化科学研究科FD委員会、50P.（単著）、2012年
- ・『細川幽斎と舞鶴』、舞鶴市、176P.（分担執筆）、2013年
- ・『細川家の歴史資料と書籍 永青文庫資料論』、吉川弘文館、254P.（共編著）、2013年

論文

- ・「〈ものけ〉考—現象と対処をめぐる言語表現—」、『国語国文学研究』第48号、PP. 112-128、2013年
- ・「永青文庫蔵熊本大学寄託和漢書の蔵書構成」森正人・稲葉継陽編『細川家の歴史資料と書籍 永青文庫資料編』、PP.123-152、吉川弘文館、2013年

講演・講座等

- ・熊本大学公開講座 世界の思想と宗教から見る「あの世」 第5回「極楽と地獄—平安朝人の視線」、2012年6月9日
- ・「鏡と分身の文学」、熊本大学ワクワク連続講義2、2012年6月9日
- ・「転生譚をめぐる事実と虚構」、熊本大学文学部国語国文学会公開講演、2012年10月6日
- ・「〈転生〉譚をめぐる：『竹取物語』『今昔物語集』『浜松中納言物語』から三島由紀夫『豊饒の海』まで」、台湾・中国文化大学、2013年3月4日
- ・「谷崎潤一郎と信田コンプレックス」、台湾・東呉大学2013年3月5日
- ・「日本文学における異境」、台湾・高雄大学、2013年3月6日

吉村豊雄

論文

- ・「棚田の社会史」『熊本史学』95・96号、PP.27-162、2012年
- ・「藩制下の広域行政と地域社会」『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』、PP.297-340、清文堂、2013年

講演

- ・「くまもと城下の暮らし—『怨斎日録』にみる幕末の世相と暮らし—」歴史文書室歴史講座、熊本市役所花畑分館歴史文書室、2012年9月25日
- ・リレーフォーラム「紀州の麒麟 肥後の鳳凰」東洋文庫、2012年9月29日
- ・「棚田の歴史をさかのぼる—白糸台地の棚田から見えてきたもの—」第18回全国棚田（千枚田）サミット基調講演、山都町中央体育館2012年10月19日
- ・「藩校時習館の歴史的的位置」熊本県立図書館創立百周年記念特別講座、熊本県立図書館、2012年10月24日
- ・「宝暦の改革と地方分権遺産」加藤・細川ヘリテージ（遺産）マイスタープロジェクト平成藩校くまもと塾、泰勝寺、2012年12月9日
- ・「棚田の歴史をさかのぼる」棚田景観セミナー、千寿園（山都町）2013年2月3日

永青文庫研究センター年報 第4号（平成24年度）

発行日：平成25年3月31日

発行者：熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター
〒860-8555
熊本市中央区黒髪2-40-1
TEL 096-342-2304

印刷所：シモダ印刷株式会社